SHLスクリーンが東北大学の産学官連携の事例として経済産業省HPに掲載されました。

産学官共同研究におけるマッチング促進のために作成されている「大学ファクトブック」に東北大学の 実用化事例として「SHLスクリーン」が掲載されました。

大学ファクトブックは、各大学の産業界との連携実績などのデータを「見える化」したもので、経済産業省および文部科学省で調査が行われ、経済産業省ホームページで公開されています。

大学ファクトブックURL

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/daigaku_factbook.html

東北大学掲載資料

超高輝度・可搬性・省電力性を備えた超短焦点プロジェクタースクリーン「SHLスクリーン」

本件連絡先							
機関名	東北大学	部署名	産学連携部産学連携課	TEL	022-795-5283	E-mail	sanren@grp.tohoku.ac.jp

概要

・この成果により解決が図られた現在社会が直面する課題

昨今、電子デバイスなどでの省電力化が求められていますが、どのような時代で も会議やエンターテイメントなどの分野で需要があるプロジェクターの分野におい ても同様です。そのような省電力化が求められる中、基本的な性能として、ユー ザの視認性に影響のある高輝度や高コントラストについても、更なる性能の向上 が求められています。

·成果

株式会社有電社様は、超高輝度・映り込み小、省電力、ベゼルレス、可搬性、安価な超短焦点プロジェクター用のスクリーン「SHLスクリーン」の販売を開始しました。

このSHLスクリーンは、従来のスクリーンと比較し、同プロジェクターを用いて、約4倍の明るさを実現しており、周囲が明るい環境でも見やすく、光を効率よく反射させることで省電力にも貢献します。更に、スクリーンは丸めて梱包できるので輸送が容易で、スクリーン裏面をマグネット加工しているため、金属製の壁に設置することができます。

SHLスクリーンは、デジタルサイネージ、パブリックビューイング、イベントなどでのモニター、仮設などでの災害時の情報掲示用のモニター、Web会議などの幅広いシーンでの利用が可能です。

・実用化まで至ったポイント、要因

株式会社有電社様は、東北大学未来科学技術共同研究センターで開発された技術を活用し、密接な連携を行うことで実用化まで至りました。

研究開発のきっかけ

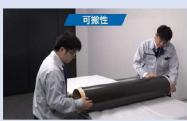
株式会社有電社様は、従前より短焦点プロジェクタでの輝度や省エネに関する課題を認識しており、親交のあった東北大学の本技術が有効であると考え、研究開発を行いました。

- ・民間企業等から大学等に求められた事項
- ・実用化までの研究開発ノウハウ
- ・知的財産に関する権利
- ・技術の新しい点、パフォーマンスの優位性

SHLスクリーンは、超短焦点プロジェクター用のスクリーンであり、薄い特殊なレンズを用い、最適な構造・設計を行うことにより、超高輝度・映り込み小、省電力、ベゼルレス、可搬性、安価を実現しました。









・ファンディング、表彰等

·参考URL

https://www.yuden-net.co.jp/wordpress/wpcontent/uploads/2020/10/f98426c025f14369a5c4ea55052e52ff.pdf